

## 鎌倉市教育委員会 平成29年12月定例会会議録

○日時 平成29年12月15日(金)  
9時30分開会 11時02分閉会

○場所 鎌倉市役所 講堂

○出席委員 安良岡教育長、齋藤委員、山田委員、朝比奈委員、下平委員

○傍聴者 4人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

(1) 教育長報告

(2) 部長報告

(3) 課長等報告

ア 不当労働行為救済申立事件の取下げについて

イ 行事予定(平成29年12月15日～平成30年1月31日)

日程2 協議事項

鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう協議について

日程3 議案第35号

鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう処分等について

### 安良岡教育長

定足数に達したので委員会は成立した。これより12月定例会を開会する。本日の会議録署名委員を、朝比奈委員にお願いする。本日の議事日程は、お手元に配布したとおりである。なお、日程の2 協議事項「鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう協議について」、日程の3 議案第35号「鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう処分等について」については、人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により非公開にしたいと思うが、異議はあるか。

(異議なし)

### 安良岡教育長

異議なしと認め、日程の2及び日程の3については、非公開とさせていただく。では、日程に従い議事を進める。

#### 1 報告事項

(1) 教育長報告

## 安良岡教育長

11月の教育委員会の後の、私の行動についてご報告する。

11月17日（金）、神奈川県の中学校の教頭先生の教頭大会が寒川であり、教頭先生方が集まり、学校運営あるいはPTA、地域との取組、教頭先生と先生方の関わりというようなものを、それぞれ事例をもとに研究協議をされた。

11月19日（日）、郷土芸能大会を今年は光明寺で開催した。この件については、後ほど文化財部から詳細を報告させていただく。

その前に、18日（土）に鎌倉市のPTAのバレーボール大会があり、今年は岩瀬中学校、今泉小学校で開催された。女性の方だけが参加できるバレーボール大会で、市Pの組織のあるところでチームを作って試合を行い、優勝が大船小学校、準優勝が西鎌倉小学校ということで大会が無事に終わった。

この週は、22日（水）に神奈川県私立幼稚園の研究大会が逗子であり、これに参加させていただいた。私立幼稚園の先生方が集まり、子どもたちの日ごろの取組、授業の様子等について研究をされた。

またその日は、西鎌倉小学校で教育課題指定研究校の研究発表会があり、これは教育委員も出席していただいているので、教育委員からご報告をしていただきたい。

24日（金）は、鎌倉にも特別支援学級を設置している学校が増えてきているが、この特別支援学級を設置している校長が特別支援学級設置学校長協会というのを作っており、その集まり、組織の中で、関東甲信越地区研究協議会というものが開催された。今年度は神奈川が大会の会場ということで、芸術館で関東甲信越地区研究協議会神奈川大会が開催された。学校における一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進、それぞれの地区でどのようなことをしているかを、事例をもとに校長先生方が研究協議をされ、学校に持ち帰り、それぞれの学校での取組に活かそうということで行われた。

12月5日は、稲村ヶ崎小学校が今年70周年ということで音楽会を開催し、これにも教育委員に出席していただいております、紹介していただきたい。

私はそのあと12月6日から12日は、鎌倉市の定例12月議会の本会議、そして13日に教育こどもみらい常任委員会が開催されたので、この議会についても、また後ほど部長からご報告させていただきたい。

それでは教育委員からお願いしたい。齋藤委員からお願いする。

## 齋藤委員

11月22日（水）、教育課題指定研究校の研究発表会ということで、西鎌倉小学校に伺った。テーマが、「伝えあい高めあう子どもをめざして」ということであつたが、このことに関して、子どもたちが伝えあい高めあおうとしている心が、先生方の中に、研究会の中に、非常に強く出ていたと感じた。課題を持って、先生方のかたまりになって研究協議を進めていくということは、子どもに対してやりながらも、実は自分たちが非常に高まっているという手応えを感じて嬉しく思った。内容的には、クラス数が多いところであつたので、各学年1クラスずつの公開授業だったが、他の先生方も、研究協議会の授業を見る中で、黄色いふせんや青いふせんを持ち、それにいろいろなことを書いていって、今度はそれを持ち寄り話

し合いがされたので、非常に活発に、いろいろな角度から課題を見つけたり、改善もしたり、よかった点の話し合い等々、非常に混みいつていた。例えば、1年生だと、1人の方が授業するのだが、その他の先生方も同じように話し合いに参加し、煮詰まった濃い研究協議ができたのではないかと思った。そういう中でやはり教師が姿勢を正し研究をしていくということ、イコール子どもが伸びる、そして教師も伸びているという素晴らしい研究発表であった。

教育長が参加され、ご挨拶もされた70周年記念音楽会という稲村ヶ崎小学校の催しだったのだが、実は私も60周年の時にいたので、特別な思いで参加した。音楽会であったので、教育長の素晴らしいご挨拶の後に、子どもたちが明るく、最初は国語の授業の合科のような形で、「くじらぐも」を映像と、それから子どもたちが舞台にいるのだが、そこで簡単な動きを入れながらセリフを言って、そして歌があってというので、とても新しい形の音楽的な雰囲気を出していた。子どもたちが次から次へと学年で演奏したり合唱したりしていくのだが、舞台が真ん中にあり、その周りに保護者がずっと連なっている。そして、来賓の方々、お客様がいらっしゃる。私が非常に感じたのは、やはりこの稲村ヶ崎小学校は、地域の中にある、地域と共にある、本当に大事な学校なのだと感じた。広報「いなむら」の開校70周年記念号というのでも発行されており、会議室では、例えば桜橋や極楽寺の辺りの、何十年か前と現在の写真が掲載されていた。お祝いの席にふさわしい雰囲気の中で行われた。

## 山田委員

私からは12月6日に第一小学校と、それから11日に第二中学校を皆さんと訪問したので、そのご報告をさせていただきます。

まず第一小学校は大きな学校で、一番印象に残っているのは、子どもたちがとにかく元気ということであった。子どもが元気というのはある意味当たり前ではあるのだが、今まで伺った中で一番元気ではないかと思った。例えば校舎を歩いていると、「誰、誰」と子どもたちが来て、教育委員であると言うと、「名前は」と尋ねられ、山田と答えると、「山田さん、ご苦労さま」と労ってもらったりして、非常に元気というか、屈託のないというか、お行儀はどうなのかと思うところはあったのだが。そんな感じで、終始とてもエネルギーに満ちており素晴らしいのだが、一方でやはり行き届いてないというか、物が落ちていたり、テストなのか分からないが、くしゃくしゃした紙が各教室に散在していたりということが気になったので、その辺は少しよく見ていただくように先生方にもお願いしてきた。作り上、校庭のほこりが校舎に入り易い作りで、1階が特に土足のまま出入りできるようになっていて、そこはマットを敷くとか、何か改善策が必要なのではないかという話もしてきた。

ここで私が非常に感激したのは、特別支援のクラスがとても充実していて、たまたま私たちが拝見したのは、聞いたり見たりが難しい方だったのだが、先生は点字の教科書を全部勉強されていて、独自にいろいろな講習にも通われて、そういう子の担任をしっかりされていて、タイプライターというのか、点字を打つ機械を使って、先生もそれを使えるし、お子さんもそれで大分いろいろな表現ができるようになったということで、そのご努力が、本当に頭が下がる素晴らしい教育をされていると思った。少しでもその方が自立できるように、ものすごく支援されているということ、ひしひしと感じた。もう一つよかったのは、そういう支援の必要な方が他にもいらっしゃるそうなのだが、第一小学校では子どもたちが自然に

受け入れて、必要な時には手をさしのべて、それぐらいは自分でできるだろうという時は放っておいてというさじ加減が、子どもたちの判断がよくできているということを伺って、それも素晴らしいと思った。

給食は、中学校くらいだといるのが邪魔なのかと思うようなところもあるのだが、小学生だと歓迎してくれて、クイズ大会みたいなものを開いてくれ、すごく高度な質問をたくさんされて、頭が痛くなってしまいうくらいなのだが、回転も速いし、最近のクイズはこういう傾向なのかと思うような、ひとひねりふたひねりあるようなものもあり、とても楽しく過ごしてきた。

第二中学校は、皆さん第二小学校から第二中学校に上がられるということで、小中の連携というか、そういう研究の対象にもなっているということで、県の研究の材料も提供しているということであった。二小のPTAの方々も非常に盛んで、その協力はひきつづき二中でいただけているのと、文化の集いに小学校と中学校の合同で行き、60名の大合唱団が大成功だったというご報告を受けた。二小のお父様方のかっぱの会というのも盛んで、それも中学校で引き続きご協力いただけるようになってきているということであった。

二中は、皆さんと言っていたのだが、山小屋というかロッジというか、軽井沢にでもいるのではないかというぐらい木の香りに包まれた素晴らしい環境で、そこをグリーンコースという周辺のコースもあり、あの学校のロケーションならではの教育というのはいろいろできるのではないか。子どもたちも非常に素直だし、そういう環境で育って幸せだと思いながら、拝見していた。一方で、がけ崩れや、まむし、アライグマといった小動物も含めて被害も大きいそうなので、校長先生が毎日そこを見回りされて、落石などの被害もあったそうなので、注意していた。

校長先生は、教育センターの所長をされていたこともあって、すごく教育に対する考え方が幅広い。学習だけではなく、個々が生きる力をつけるための教育というのをしっかり推進していらっしゃるというのがよかったと感じた。教育は全て自分を知るためのもので、できないことを通じて、自分は何に向いているのかという方向にシフトできるような、自分自身を見つめる時間として中学校をとらえていらっしゃると思った。そういうためには競争もよく、競争するのは一番になるためだけではなくて、何が劣っているのかとか、自分の位置付け、全体の中で自分がどこにいて、だからこれではなくてこっちをしたほうがよいということを知るのに有効なのではないかという話しであった。その意味では、あまり家で勉強しすぎないほうがよいのではないかというお話もあったのだが、学校の延長で家庭をとらえない方がよいということであった。

最後にご報告したいのが、県の補助を受けて実行された「いのち」を大切にすることを育む教育推進というプログラムである。昨年何回かされたのだが、その中で、書家の金澤翔子さんをお呼びして講演会をされたそうである。「共に生きる」という字を書く実演や、お母さまと一緒に講演をいただいたということで、その内容を少しご紹介する。必ず自分の存在は誰かのためにある、暗闇にも必ず光がある。翔子さんは、小学校の時に何でもビリだったのだが、ビリが私の役割だと。私がビリになることによって他の子はビリにならないで済むということをおっしゃっていた。それと、お父様を小さい頃に亡くされているのだが、彼女は特別な感覚というか、そういうのがあって、お父様はまだ生きてらっしゃると思っていて、いつも書を書く時には必ずお父様にお祈りして「これから書くよ」と会話をしてから書かれ

るとか、学校に行けない時期もあったそうなのだが、そういう時には般若心経をお母様と一緒に書いて心を通じ合わせたとか。生徒だけではなく保護者の方もお招きを受けたらしいのだが、大変感じるところがあったのではないかと思う。著作権等の問題があると思うのだが、こういう素晴らしい機会は、撮影ができるのか中継ができるのか分からないのだが、他の学校とも共有できるとよいというお話もしてきた。

## 朝比奈委員

久しぶりに定例会に出てきた感じで、申し訳ない。この頃少し用事が立て込んで、11月もお休みをいただいていたので、10月に関わりがあったことを、まずご報告させていただく。

10月13日に県立総合教育センター、大変大きなホールで講演をさせていただいた。ついで10月19日、浄智寺で新採用の職員の方々の座禅研修。どちらも、私が制作に関わった円覚寺の修行僧の主だった1年間を通したDVDがあるのだが、それをご覧いただき、鎌倉には伝統的にこういうことを未だに続けている者がいるのだ、修行僧がいるのだということを紹介しながら、禅の心と少し教育に関わるようなところをお話させていただいた。

そして11月30日には、初めてなのだが、今泉小学校の6年生の児童が大勢みえ、浄智寺で座禅会を行った。これはいつも夏に先生方を対象に研修会をさせていただいていたのだが、そこで意見として「うちの学校の児童にも経験をさせてもらえないだろうか」というお話をいただいた。なかなか条件が合わなくて、やっと11月30日に今泉小学校の先生から連絡があり、60人なのでさすがに一度には入れないので、30人ずつくらい入れ替わっていただいていた座禅体験であった。だいぶ涼しい時期にもかかわらず、Tシャツ一枚で座る男の子もいた。警策という棒を受けたいと、あれで叩くのは少し暴力みたいにとらえられてはいけないと思ったので、あえて最初控えていたら、先生が「それを楽しみに来たので」とおっしゃったので思い切り叩いてあげると、「もう一回」という子がいたりした。楽しんでというのはおかしな話だが、楽しんで帰っていただいたと思う。あとで感想文もたくさん頂戴し、非常に嬉しかった。

それと、先程の山田委員のお話にあった、第二中学校。私はこの日、中学校給食を初めていただくので、それに浮かれたのか1時間位前に早く学校に行ってしまうと、校長先生が「何かご用ですか」という、そのくらい久しぶりにお伺いした。とにかく第二中学校は山田委員もおっしゃっていたように、環境が素晴らしい。校舎が新しいのは大船中学校がさらに新しい訳だが、あの山の中という立地にある学校としては、あそこに無機質な校舎は合わないで、まさにピッタリな校舎である。新しいおかげもあって校舎内も掃除が行き届いており、もちろんお手洗いもきれいで、言うことのない感じであった。あの日は特に暖かい日で、寒さも感じなかった。廊下に出たら寒くて凍えるということでもなく、日当たりもよろしいのではないかと思った。

給食については、私は試食会も伺っていないので初めてだったので、一応感想を申し上げると、おいしかった。おいしかったし、量も適切だったと思う。ちょうど学校にお伺いしてあちこち校舎を拝見している時に、11時くらいに搬入されていたが、新しい学校のおかげもあり、搬入も第二中においては割と容易な方に入るのかという気がした。トラックが玄関の真ん前に乗り付けられ、割と滞りなく行われていたように思う。食事の内容もよかったのだ

が、私は温かさは十分であったと思ったのだが、他の学校で召し上がった他の委員の方は「いや、少し冷めていた」というコメントもあった。ご自分で自宅から持ってきたことを思えば、あんなに温かいご飯であるはずもないし、温かいお汁もいただける訳であるから、家で保温の容器に詰めてきても、よほど高性能のものでなかったらぬくなるので、十分いただけたと思った。ただご飯は、私があればをいただいてしばらく満腹状態だったので、女の子にはたぶん多すぎるのかという気がした。現に、先生もテーブルを共にした女の子も「少し多い、私は残してしまう」と言っていた。対策としては、もう少し控えめにして、足りない人はおかわりをするというようなことになるのだと思う。いずれにしても 15 分という短い時間での食事なので、我々が特に応接室で待機していた所でお声掛けいただいて行くと、概ね始まっている訳である。本当は、一番最初からどんなふうが始まるのか、おしまいはどうなのかを気にしたいところではあるのだが、担任の先生によるのかもしれないが、ちゃんと食事を揃っていただきますというのがあったのか。流れで食べ始めているようにも見えたし、終わりは遅い子もいるから、「はい終わり、ごちそうさま」と勝手に終わらせているようにも見えた。小学校だと割と揃ってしていたようにも思うが、やはり物の命をいただく訳であるし、食事の作法で手を合わせろという宗教を押し付けるのかと問題になるのかもしれないが、何かもう少し落ち着いて食べ始めて終わるといえることができるとういであらうという気が、いつもする。中学校は特に今までお弁当を持って来て食べていたから、それがよけいに「揃って」というイメージではなかったと思うのだが、給食が浸透して行く上では、是非そういうところも考えた方が宜しいのではないかという気がした。

## 下平委員

すでに他の教育委員からも発表があったことなのだが、重ならないことで申し上げたいと思う。11月22日の西鎌小の研究発表会では、教室に入れないう程他校の先生方が熱心に授業を参観していらっしゃる姿、これが非常に素晴らしいと思った。研究課題のテーマでもあったということもあるが、生徒自身に考えさせ、そして先生との発言・質疑のキャッチボールのようなものが、わきまえのあるルールの中できちんとされているクラスが多かったというのが印象であった。ただ、他の学校でも感じたことがあるのだが、先生方は話すプロであるから、声のトレーニングというのをもっとやってもよいのではないかと思う。自分の体を楽器として使って、届く声、響く声、それから内容に応じて声の使い方を変えるとか、そういうある意味パフォーマンス力というか、そういうものが身に付いてくると、もっと惹きつけたり、全体を掌握したり、動かしたりということが、絶対できると思う。クラスによっては先生の声が届かない所の子たちが、勝手に自分の作業に入っているということも、まあある。その辺り、話すプロとして少し意識があってもよいのではないかと感じるころはあった。

そして12月8日は、齋藤委員と一諸に小学校の音楽会に参加した。改めてステージで見ると、深沢小が143名に対して稲小が24名ということで、同じ5年生でも多いところと少ないところと随分差があると思ったが、24名の稲小も39名の富士塚小も、どこにも負けない大きな声と大きな演奏、ダンスパフォーマンスを入れることで舞台広く見せるとか、本当に先生と生徒たちが一諸になっていろいろ工夫していらっしゃる姿、非常にほほえましく好感を持って、そしてまた力強い歌声、爽やか歌声と演奏に非常に私も力をいただいた。16校で、それぞれが歌、合唱と合奏を披露した。そして西鎌小は笛だけの演奏も一つ入ったので、午

前と午後、全部で33曲聴かせていただいた。その中で、クラシックがたった2曲、童謡とか唱歌に関しては全くなしという状況であった。時代を反映してだろうとは思いますが、ドラゴンクエストのゲーム曲であったり、ケツメイシ、きやりーばみゅばみゅとか、児童たちには親しみがあって食いついて来るということで先生は選んでいると思うのだが、来賓席にいらした方々からは、小学校らしい、小学校だからこそクラシックに触れたり、素晴らしさにこういった機会に触れて、よいものだと思ってもらうというものも欲しいという声もあった。確かに、小学生たちの澄んだ声で唱歌のようなものを聴いてみたいという感想を持った。いずれにしても、先生方が一体になって子どもたちを会場の中でしっかりと誘導して、一つにして滑らかに音楽会が進行されたことは非常に印象的であった。

そして第二中、さっき朝比奈委員が温かかったとおっしゃったのだが、私は以前いただいたことがあるせいだろうと思う。1時間前に搬入の姿を拝見した。その後1時間後に給食だったのだが、明らかに冷めていた。やはり今時の中学生がよく食べる保温容器等であればかなり温かく食べられるので、それから見ると1時間でこんなに冷めてしまうのだと、保管の仕方もあるのかとは思っているのだが。この前は、あんかけ揚げ出し豆腐であった。そぼろは入っていたのだが、肉類はあまり入っていなかったこともあったと思うのだが、男の子が「おいしいですか」と、何人かで聞きにきた。それで「とてもおいしい」と言ったら、「何でもおいしく食べられるということは、よいことですね」と、裏のある言い方をされたので、やはり男の彼らにとっては少し物足りなかったし、味も確かに薄かったのと、あんかけの豆腐が少し硬くなっていたので、箸で千切れないということも私は感じた。本当においしくいろいろ考えて作ってくれていることは分かるのだが、だからこそよりおいしく食べてもらいたいという感じはした。そして私が行った3年生のクラスは牛乳が足りないと大騒ぎになったということがあったかもしれないが、早い子はどんどん食べ始めて終えて出て行ってしまいうし、私もどこで食べ始めたらよいのかという状況で、慌ててしまう感じであった。15分が短いから、中学生になると天気がよい日は早く校庭に出て遊びに行きたいと気が焦っているというものあるだろうが、折角食育の一貫として始めた給食なので、さっき朝比奈委員もおっしゃっていたが、皆でおいしくいただくとか、どういう食材でどういう意図があってといったことも、少し触れながら味わってもらいたいという感じは少しした。

それと、校舎は本当に素晴らしくてよいのだが、少し心配なのは消防法の関係で体育館の改装が入るかもしれないというお話を聞いた。これは今後また教育委員会で大きな予算を使ってということになるのかもしれないが、その辺り少し心配であると思った。新しい施設であるが消防法が変わることでそういうことが起こってしまうということは、考えなければいけない問題だと思う。

そして金澤翔子さんの話があったが、ダウン症の方はある意味人間の進化系とも呼ばれており、争いというものを全くしないというのが特質なのである。その翔子さんというのは競い合うという気持ちが無いという、これはある意味私たちは見習うべきではないところで、そういう姿に子どもたちが触れられたということは、とても素晴らしいと私も感想を抱いた。

## 齋藤委員

ただいま二中の給食の話が出たので、私も一言だけ付け加えたい。私が行ったのは1年生

だったのだが、ちゃんと「いただきます」と「ごちそうさま」はあった。やはりクラスの雰囲気かと思うのだが、担任も次の授業のこともあったのだろうと思うのだが、ちゃんとメリハリがあったということと、中でちょこちょこお話をしながら食べられたということが、よかったと思っている。それから冷めたということなのだが、私も揚げ出し豆腐は少し硬かったかと、それはやはり冷えたためだと思った。ではこれも温かければと思ったのだが、それはやはり無理だということもある。お汁とかご飯は程よい温かさを保っていて、おいしくいただけただけだ。量的には少し多いと、私は年なので思った。そこはやはり若い子どもたちにはおいしくいただけ、そばろの味付けに関して「このそばろはやはりおいしい、これが一番よい」みたいに言っていた。もっと面白いのは、「これがちゃんと上に乗っていけばそばろご飯だ」と言いながら食べていた。様子を聞いてみたら、「少し、こっちのおかずが硬い、冷たい」というのだが、おかずは仕方がないと思う。お野菜も入るし、あれまで温かい状況ではきついただろうと思った。そんな中でごちそうさまもでき、おとなしそうな子どもたちとも触れ合うことができた。

### 安良岡教育長

学務課担当課長、いつも検食されているが、食べてみていかがか。

### 学務課担当課長

いろいろご意見いただき感謝する。おかずは冷まさないといけないという、これが最大の難関であり、今献立は3か月分、1月まで用意しており、実はメインのおかずになるものは同じものは、一つたりとも入れていない。まだ初めてということで試行錯誤というのは確かにある。今後、ずっとやっていった上で、よりよいものにしていきたいと思う。お豆腐は冷やすのに真空冷却という方法をとっており、食材の空気が少し抜かれてしまう。真空になるので、少し凝縮するような形で硬めになってしまうというところはある。逆に言えば利点もあり、例えば煮物とかはデータの塩分濃度や味付けは非常に薄いのだが、凝縮されることによって味がしまるというか、濃く感じるという利点も一方ではある。もう一つ、凝縮されるので、ふんわり感が少しなくなってしまうというところがあるので、今後、そういった実験、実験しているつもりはないのだが、いろいろなおかずを出すことによって、これは真空冷却に適しているとか、そういうことがだんだん分かってきたので、少しずつよりよいものを提供していきたいと、栄養士も頑張っているのだから、今後もしご意見をいただければ幸いである。

### 安良岡教育長

真空冷却したものが、後でどうなるかというのが難しい。この間はトンカツが出たのだが、栄養士がいろいろ工夫して、普通の脂身のある肉だと脂分が固まってしまうので、ヒレカツだったそうである。子どもたちは大喜びだったということであった。

## (2) 部長等報告



## 教育部長

私からは、現在も開催中であるが市議会 12 月定例会の概要について、1 枚のペーパーをお配りしているので、これに従ってご報告させていただきます。

12 月定例会は 12 月 6 日に開催され、今月の 22 日までの 17 日間の日程である。

まず一般質問では、全体で 20 人の委員の皆様が質問にお立ちになり、教育部関連については 10 名と、かなり大勢の方からのご質問を受けた。一般質問は、6 日から 12 日の間である。1 番から 10 番まで、それぞれ議員さんからいただいた質問の概要を、項目であるが列挙した。一つ、私の印象的と言うと語弊があるが、答弁をする際にこういう状況なのだと、私自身も改めて知った部分がある。3 番目の安立議員から質問をいただいた、小中学校で教材費等の徴収についてはどのような状況なのか、というご質問であった。少し中身をご紹介しますと、例えば中学校における標準服、いわゆる制服の値段はどれくらいなのかというお話があり、いろいろ学校ごとに購入のルートなど違いはあるのだが、男子用では、詰め襟とブレザーが主流であるが、大体おおよそ 3 万円台の後半になっている状況である。それから女子用は、ベストがついているなどいろいろバリエーションはあるが、大体 3 万円代の半ばから 4 万円前後ということで、中学校に入学する際に保護者の皆様に大きな負担になっているということを、私としても改めて確認をさせていただいた。そして小学校、中学校では、それぞれの学年、あるいはクラスごとに、さまざまな特色のある学習を進める上で、いろいろな教材費を保護者の皆様にご負担をいただいているのだが、これもかなり学校間でもばらつきがある。全部数字を言うともものすごく時間がかかるので、ざっくりと申し上げる。小学校に例えば 6 年間通って教材費がどのくらいの負担があるのかというデータを、学校から取り寄せ集計をした。6 年間の合計の最高が約 10 万 2,000 円。最低が 5 万 9,000 円ということで、これを格差といったら語弊があるかもしれないが、この 10 万 2,000 円と 5 万 9,000 円であるから、倍まではいかないが、それに近い数字が出て来るということになる。この 16 校の平均は 8 万 3,400 円で、どういう教材をどういう形で皆様にご負担していただくかについて、本会議の中でも、非常に議論を受けた。ちなみに中学校だが、同じように 3 年間の最高は約 16 万円、最低約 13 万円ということで、ここは 3 万円くらいの差なのだが、平均的にいうと 14 万 8,000 円と、こんな数字も出てきた。こういったことから、教材費の負担のあり方、教材費をどういう区分で保護者の皆様にご負担していただくのか、負担をしていただく数字の開示と言うか、あらかじめ 1 学期はこのくらいのお金がかかるという事前のアナウンスとか、いろいろ工夫が必要ではないかというご指摘を受けて、今後校長会等々通じて、こういった内容をつぶさに調査をしながら、公費負担あるいは保護者負担のあり方というところも、しっかり見直していかなければいけないと感じた。

そして 12 月 13 日、2 番目だが、教育こどもみらい常任委員会があり、案件は報告事項 5 件であった。いずれもこの教育委員会の中でお話させていただいている内容であるので重複するが、特に委員の皆様からお話も出た中学校給食の関係については、やはり議員の皆様も非常に興味と関心をお持ちになっていただいて、議員の皆様を全員会議室にお呼びして、11 月 7 日の初日のメニューと同じメニューをお食べいただいた。委員の皆様からいろいろご指摘をいただいた内容を今後改善していく必要がある中、ご承知だとは思いますが、年明け 1 月には改めて生徒や先生方にアンケートを取る。量とか質とか温度とか、どういうお子さん方のご意見が出てくるのかということも、十分受け止めさせていただく。特に、女子生徒のご

飯の量と男子生徒のご飯の量が、今は一律でやっているの、どういう工夫があるのか。当然おかわりはおかわりとして用意はしているのだが、やはり食材を有効に活用するという意味でも、なるべく残食がないやり方もよいと思うし、またクラブ活動をやっている男子生徒等は、あのお昼では少しお腹が減ってしまうというご意見もあるようであるので、例えばご自宅から捕食を持ってきてもよいのかどうかということも含めて、この量と質の問題については、1月にそういった調査をして、ハーベストさんにいろいろご相談をしながら、どこまで対応できるか、そこのところを次年度の給食に向けてしっかり整理をしていきたいと思っている。

長くなったが議会は以上になり、今月の22日が最終日になる。教育委員会、文化財部の所管の部分の委員会も終わっており、私も文化財部長もほっとしているところである。

## 文化財部長

それでは私から3点ご報告を申し上げます。

1点目は、市議会12月定例会の文化財部及び歴史まちづくり推進担当に係る部分のご報告である。2点目はさきほど教育長報告でもご紹介いただいた、第48回鎌倉郷土芸能大会の結果について、そして3点目が鎌倉歴史文化交流館で実施した特別展「甦る永福寺一史跡永福寺跡整備記念一」の開催報告ということで、ご報告をさせていただきます。

1点目の12月定例会であるが、まず一般質問、文化財部関連のみの質問であった。お手元にあるように、千議員、高野議員、前川議員、くりはら議員、この4名の方からご質問を頂戴した。千議員については、「東京オリンピック・パラリンピックまでにやらなければならないこと・できること」というテーマで、高野議員は「文化財行政について」ということで幅広くご質問をいただいた。前川議員からは「文化・芸術・歴史について」ということで、文化財に関連する部分ということでご質問であった。くりはら議員は「鎌倉らしい市政についての要望と提案」というテーマの中で、国宝館と歴史文化交流館についてのご質問を頂戴した。詳細の項目については記載のとおりであるが、今回の4名の方の質問を振り返って見ると、実を言うと高野議員、前川議員、くりはら議員、この4名中3名の方が、鎌倉歴史文化交流館を取り上げてご質問されている。それだけ議会からも注目されている、逆を言えば、しっかりとやっていかなければならないということ、改めて質問、答弁をさせていただく中で感じたところである。そして一般質問最終日に、前回の会議でご承認いただいた、鶴岡八幡宮境内史跡指定地内で起きた崩落事故に伴う損害賠償の案件について、議決をいただき、ただちに事務手続に入っていける状態になった。

教育こどもみらい常任委員会は、文化財部関連、これも前回の定例会で承認をいただいた平成30年4月1日の組織の見直しについて、そして今申し上げた損害賠償も含めた補正予算、これらすべて了承をいただいたところである。教育部長はほっとしているとおっしゃったが、実を言うと本日建設常任委員会があり、この中で雪ノ下三丁目、大倉幕府跡でのマンション建設計画が持ち上がっており、それに対する陳情が出ており、本日申し訳ないが、文化財課長、歴史まちづくり推進担当課長がそちらに出席して、こちらは欠席をさせていただいている。もう1件、同じく建設常任委員会、これは北鎌倉隧道に関してまた陳情と請願が出ており、文化財課長が出席する予定となっている。以上12月定例会市議会のご報告である。

続いてお手元に、第 48 回鎌倉郷土芸能大会の実施報告書という簡単なペーパーをご用意させていただいたので、ご覧いただきたい。この大会については 11 月 19 日（日）、今回は光明寺の本堂を会場に開催をさせていただいた。こちらの本堂は国の重要文化財の指定を受けており、無形民俗文化財の公開を有形の重要文化財の建物の中でやるというダブルの催しになったということで、非常に意義深かったと考えている。写真を掲載させていただいた。3 枚が講演の状況であるが、こういった本堂のしかも内陣、これは仏様にお尻を向けてしまうような状態ではあったのだが、このような厳かな雰囲気の中で開催をさせていただいた。9 団体が熱演をして下さった。右下は、光明寺の声明である。こちらにも郷土芸能の中に入っており、しばらくご講演いただけなかったのだが、今回は会場も光明寺ということで、しばらくぶりにやっていただけだったということである。9 団体の方にやっていただけたが、来場者が 273 名ということで、この過去 4 年間で最高であった。今までは生涯学習センターでやっており、昨年度は 151 名でやや少なかったのだが、273 名は非常に多い数である。駅から離れているため心配をしたのだが、当日天気もよく、そして参拝の方が「何やっているのだろう」ということで覗かれたということもあるのだが、先ほど冒頭で申し上げたように、重要文化財の建物の中で何かやっているということが、人の目を引くということであったのではないか。これをひとつ好材料にし、今後も一工夫、二工夫しながら郷土芸能の普及ということに努めていかなければいけないと考えた。

続いて、歴史文化交流館の企画展「甦る永福寺一史跡永福寺跡整備記念一」であるが、こちらは平成 29 年 10 月 19 日から 12 月 9 日、先週で終えた訳だが、延べ 43 日間の会期で開催をした。この間、下に関連イベント講座等と書いてあるのだが、11 月 11 日には若手住職方のトークセッションということで、「仏教作法のイロハを学ぶ」ということで講演をさせていただいた。11 月 28 日の夜間講座、これは永福寺の発掘成果である。それから VR、バーチャルリアリティーで永福寺の体験をするということで、湘南工科大学の長澤研究室のご協力で、記載の土曜日に体験をやらせていただいた。さらには毎週土曜日には学芸員が列品解説をする。今回の展示については、出土瓦を屋根状に復元するというような組み立てを行い、特出すべき展示手法ということで、実は NHK にも取材していただいて放映していただいたところである。そして今回の会期中の延べ来場者数が 7,639 人で、1 万には届かなかったが、1 日当たりになると 178 人においでいただいたということなのだが、特に 12 月に入り非常に好調で、12 月 1 日から 12 月 9 日までの間に 2,623 人においでいただいた。特に最後の週、4 日から 9 日までの間は NHK の放映があったということでかなり伸びたのだが、ちなみに最終日 12 月 9 日（土）が 551 人ということで、これは開館以来の最高記録で、だいぶ取り返せたというようなこともあるのだが、ここもいろいろな新規の取組、新規の打ち出しというものを、この特別展、特別展自体が新規なのだが、その成果だと素直に受け止めている。これを一つ大きな糧として、平成 30 年度以降も必ず何か特別展、それから特別展にあわせていろいろと皆様に訴えかけられるような仕掛けというものを積極的に考え、展開していきたいと考えた次第である。

## 下平委員

教育部長の報告の中にあつた教材費の件、私も確かに小学校・中学校、子どもを通わせている時に、例えば裁縫セットやキット、書道道具や絵具セットなど、ぽろぽろと出て行った

と思う。ただ学校からは、年間こういうのが想定されるといったご案内はいただいていたような覚えがある。それと同時に、PTA の活動の中で、保護者同士が譲り合う「お兄ちゃんが要らないから、どうか」といった制度もあった。制服に関しても、PTA が汚れを取ったりそれから縫い直したりしながら譲っていくような学校もあるのではないかと思う。その辺の、PTA との協力、どのような活動をしているかを、併せて今後検討していただくとよいと思う。

### 教育部長

本会議のやりとりで、その話も出た。PTA を中心に標準服のリサイクル活動を行っている学校もあり、そうした意味で保護者の負担軽減にも努めているということで、いくつかの取組もご紹介するが、この金額の数字というのが、鎌倉市がどういう立ち位置になるのかも調べていかないと分からないということもある。保護者負担の全体のあり方という議論の中で、標準服も話としては出た。学校で工夫をしていただいているのも事実であるということも、ご報告させていただいた。

### 下平委員

確かに金額がこれだけ差があるというのを私も初めて知ったので、これは少し調整していただきたい。それから同じ裁縫セットを買うにしても、結構値段にランクがあって、保護者が自らこれを何種類かから選ぶというのもあったようなので、その辺りも今後検討課題かと思う。

文化財部の方なのだが、前川議員の概要にあるエコミュージアムと、(仮称) 鎌倉博物館に関して、補足というかももう少し伺ってもよろしいか。

### 文化財部長

エコミュージアム、それから(仮称) 鎌倉博物館は密接な関連があり、併せてお答えをさせていただきます。

(仮称) 鎌倉博物館であるが、今般開館して公開している「鎌倉歴史文化交流館」を作る際の基本計画の中で、とりあえず交流館は展示施設としてオープンをするが、それと一体として手前の空き地も活用して博物館を設置していく、ということを謳っている。その検討をどうしていったらよいかを、準備的なものだが、実は今年度の下半期から交流館長と国宝館長を中心としたメンバーで始めたところである。今年度中は準備的な検討を行い、平成 30 年度から具体的な実質的な検討をしていく。委員会にするのかアドバイザー会議にするのか、その辺りは今考えているところだが、そういった検討をしていくということでの質問であった。

鎌倉にとってどういう博物館がふさわしいのか、実を言うとこれまでも何回か議会でご質問いただいております、エコミュージアムという考え方がよろしいのではないかと、私もそれから市長も答弁を差し上げている。ではエコミュージアムとは何かということだが、一言で言って、この鎌倉の地域全体を博物館と捉えていく。鎌倉には、史跡や社寺、その他さまざまな文化的な遺産、歴史的な建造物、そこで活動する無形の遺産等、さらには自然環境も豊かであり、そういったものを全部ひっくるめて博物館にしていく。例えば、歴史文化交流館で

あるとか国宝館であるとか、そういう博物館施設を中核、コアとして、市内に点在するさまざまな文化遺産、歴史的な遺産、それから自然環境といったものをサテライト、衛星として繋ぎ合わせていく。それを市、行政だけではなく、市民の方々も巻き込んで、地域で運営していくという考え方が、エコミュージアムという考え方の概念の基本になる。そういった形を採っていくということが、鎌倉にとっては相応しいのではないかと申し上げてきたし、議員からもそういう趣旨で「これはよいのではないかと」というような質問をしていただいた。それを中心に検討をしていきたいとお答えをしたところである。

### 山田委員

すごくよいアイデアだと思うのだが、エコと言うともっと太陽光を使うのかとか、自然の中にある彫刻の森美術館みたいなものとか、イメージするものが違うとは思った。

それと郷土芸能大会や永福寺の特別展、どちらも大盛況で最多の来場数があったというのがとても嬉しいことだが、いらした方々の客層というか年齢層、あるいは鎌倉の方か外の方かというのは分かりづらいと思うのだが、例えばざっとご覧になって年齢層とか若い方もいらしたのかというのは分かるか。

### 歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

郷土芸能大会についてのデータ等はないのだが、交流館はアンケートという形で自由にお書きいただいているもので、全員がお出ししていただいているものではないのだが、年齢層としては今までのアンケートでは、交流館にいらしていただいている方で一番多い年代で言うと60代が23%、70代の方が次いで20%というような状況で、やはり高齢の方が多くなっている。また居住地は、鎌倉市内が48%で約半分。その他県内が33%、県外からというのが16%というような状況で、大体約半分の方が市内からお見えになっているというような状況となっている。

### 文化財部長

先ほどのエコミュージアムという名称なのだが、これは実はそういう印象を皆様を持たれてしまう。どうしても「エコ」というと節電とか節約とかそっちの方向なのだが、実はこれは造語であって、エコロジーという、要は地域とか郷土とかそういった意味合いのものと、ミュージアム、これをくっつけてエコミュージアムと呼んでいる。これから、用語としてそういった勘違いということにもなりかねないと思うので、少し工夫が必要だということは、準備的な検討の中でも話しているところである。

### 安良岡教育長

郷土芸能大会の後継者をどうするかというのが今大きな課題なのだが、祭囃子については特に小学生も結構一緒に地域の中で取り組んでいて、小学生の時からやっている20代くらいの子が逆にそのまま引き継いで、また小学生を教えているという団体もあるので、子どもたちも一緒に参加できる場面を多く作ってあげられればよいと思っているところである。

### (3) 課長等報告

#### ア 不当労働行為救済申立事件の取下げについて

##### 安良岡教育長

報告事項のア「不当労働行為救済申立事件の取下げについて」、報告をお願いします。

##### 教育部次長兼教育総務課担当課長

課長等報告の報告事項ア「不当労働行為救済申立事件の取下げについて」ご説明させていただきます。議案集は1ページから3ページを参照願いたい。

平成27年4月30日付けで、申立人である鎌倉市職員労働組合現業職員評議会が、被申立人を鎌倉市 代表者 市長 松尾崇、鎌倉市教育委員会 代表者 教育委員長 下平久美子、及び鎌倉市議会 代表者 議長 中村聡一郎とする不当労働行為救済申立書を神奈川県労働委員会に提出したことについては、平成27年5月の当委員会定例会で議案として上程し、審査の手続きを開始することについてご承認を頂戴した。この度、鎌倉市労働組合現業職員評議会が平成29年11月15日付で神奈川県労働委員会へ取下げ書を提出したのでご報告させていただきます。

(質問・意見)

##### 山田委員

この事件というか、内容は具体的にどういうことなのか。

##### 教育部次長兼教育総務課担当課長

平成26年の9月議会において、鎌倉市職員の給与に関する条例等の一部改正する条例という給与改定の条例について、市長から提出した「わたり」という少し公務員の世界で独特のものなのだが、「わたり」を解消するという中で、激変緩和、急激に給与が下がらないような措置を講じる案を出したのだが、議会で修正案が出て、激変緩和措置を取らないという形での議決内容、条例内容になった。これに対して、私どもの鎌倉市の職員労組の現業評議会が、それについて激変緩和措置を講じること、それに対して鎌倉市と鎌倉市教育委員会は誠実に団体交渉を行うということを、申立てたものである。今回、取下げということになったが、相手方からの説明によると、神奈川県の労働委員会に発する各種の宛名人を鎌倉市長に統一することによって、論点、争点を絞っていきたいということで、今回は教育委員会と鎌倉市議会を取下げという形になった。

##### 教育部長

当時その仕事をやっていた。実は、この給与の見直しと一緒に、特殊勤務手当の見直しというのも併せて行った。地方労働委員会はこの二つの案件が申立をされている。一方の特殊勤務手当の案件については、もうすでに地労委が結論を出している。その結論は何かというと、同じように被申立人が市長と教育委員会代表と市議会という三者に対して申立をしてい

るのだが、この特勤の地労委の裁定は教育委員会に対しては却下。却下というのはいわゆる門前払いである。訴えの利益がないという、こういう意味で却下。それから鎌倉市に対しては棄却ということで、要は鎌倉市の特勤に関する組合交渉等々については特に問題はなかったという地労委の判断で、裁判でいうと鎌倉市が勝訴といったら語弊があるが、そういった状況があってこの特勤のもう一つの事件があったので、今回の給与改定の部分についての訴えの利益がないということで、労働組合も議会と委員会は取り下げたということである。

ただ取り下げているが、この激変緩和の部分については、まだ地労委で係争中で、結果が出ていないということになる。さきほど言った特勤については地労委の結果が出たが、不服がある場合、今度は中央、国の中央労働委員会というのがあるのだが、そちらに裁判でいうと上告ができる仕組みになっている。

### 下平委員

当時、教育委員長だったということで申し立てられている側だと思うのだが、その辺りはどうなっているか。11月21日の段階でこの書面が出ているのだが、もう対象では無くなったと考えてよいのか。その辺りを確認させていただきたい。

### 教育部長

当然ながら地労委の訴えが取り下げられており、地労委の中で我々はその相手方として対象になっていないということになる。

(報告事項アは了承された)

## イ 行事予定 (平成 29 年 12 月 15 日～平成 30 年 1 月 31 日)

### 安良岡教育長

報告事項のイ「行事予定」についてだが、記載の行事予定について特に伝えたい行事等があればお願いします。

### 教育部次長兼教育総務課担当課長

教育部からは2点ご紹介させていただく。議案集の6ページ24番、第50回鎌倉市学校保健大会が開催される。1月25日、14時から生涯学習センターきらら鎌倉で、今回は「子どもの健康とICTの現状と課題」という演題で、山梨大学の山縣教授にご講演をいただく予定になっている。続いて、同じ6ページ25番、平成29年度鎌倉駅地下道ギャラリー展示になる。こちらは希望する学校が1月9日から2月26日にかけて、児童生徒の絵や工作、研究物などを展示することになっている。学校教育の成果の一端を幅広く市民に公開することを目的として開催されるので、是非お運びいただければと思う。

### 歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

文化財部からご案内する。8ページ53番、国宝館であるが、例年新春お正月に浮世絵に関

して特別展を開催している。また新年も「北斎と肉筆浮世絵」ということで開催させていただく。12月15日号の広報でお知らせしているところである。また55番、国宝館館長講座ということで、1月21日と書いてあるが、こちら実は3回連続の講座で、あと2月4日と18日の3回で予定している。国宝館の館長講座としては初めての取組で、今回やらせていただくと思っている。こちらは12月1日号の広報で、募集をしている最中である。次に、9ページ、最後の57番。これは鎌倉歴史文化交流館の事業で「発掘調査速報展2018」ということで、先ほど部長よりご報告させていただいたが、おかげさまで永福寺の特別展が無事に盛況のうちに終了、閉会させていただいた。今、休館して準備を進めているところであるが、新年からの特別展、今こちらを準備させていただいているところである。

### 安良岡教育長

図書館の方からファンタスティック☆ライブラリーについてまとめていただいた資料が、後ろに付いていると思うので、中央図書館長から報告をお願いします。

### 中央図書館長

教育委員会10月定例会において、毎年恒例の秋の図書館の行事であるファンタスティック☆ライブラリーについてご紹介したところだが、11月6日に無事終了したので、本日はこの場をお借りして結果をご報告したい。お手元のA4横の資料をご覧ください。

10月22日から11月6日まで、追加も含め、全館にてさまざまな催し、展示を行い383名の方に図書館へ来ていただいた。特に参加者の多かったものについてご説明させていただく。12番の11月6日開催のファンタスティック☆カフェは、中央図書館3階の多目的室を開放し、無料で利用者にコーヒーを飲んでもらうというもので、社会福祉協議会の参加団体である珈琲野郎にご協力いただいた。80名にご来場いただいた。7番の11月3日開催の「田辺松坡～教育者・漢学者・家庭人～」は、鎌倉の図書館に縁の深い田辺松坡に関する講演会で、52名の参加があった。6番の10月1日開催の「活字から聴こえてくる音」は、大船図書館において音楽に関連する書籍、恩田陸の「蜜蜂と遠雷」、こちらの本はベストセラーとなり予約もすぐ入っている本である。あと、宮下奈都の「羊と鋼の森」、これについてもすぐ予約が入っている本なのだが、それに関してまず私がブックトークを行い、そのあとフルート奏者の吉川久子さんと対談を行った。この吉川久子さんは、実は鎌倉駅の発車ベルのフルートの音楽の奏者の方なのだが、対談を1時間弱、フルートの演奏もしていただいた。場所としては学習センターの集会室も考えたが、図書館で演奏してもらうことも意義があると考え、カウンターの中での演奏、聴衆はカウンターの周りや本棚の周りということになった。67名の方に聴いていただき、また教育長にも来ていただいた。参加した方からは図書館でこのようなミニコンサートを行うのは素晴らしい、ときどき開催してほしい、本に囲まれて音楽を聴くのは新鮮だった、音楽をテーマにした本と実際の演奏を結び付ける企画はとてもおもしろいと思う、今後シリーズ化していただければ嬉しい、などの感想をいただいた。

図書館関連団体と共同で開催してきた図書館まつりであるファンタスティック☆ライブラリーも、今回で9回目になった。今回もこのような機会を通し、図書館に親んでもらえればと思う。



## 安良岡教育長

大船図書館でやった吉川久子さんのフルートの演奏が夜の図書館で、本来なら本を読んだり本を探したりする場所で、皆様でフルートの演奏を聴いて、なかなかまた違った感じができて、また別の機会にそのような企画をしていただければと思う。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

## 安良岡教育長

それでは、日程の2及び日程の3については非公開とするので、傍聴の方及び関係職員以外の職員の退席をお願いします。

(傍聴者及び関係職員以外の職員退席)

---

非公開

---

2 協議事項 鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう協議について

3 議案第35号 鎌倉市教育委員会職員の人事にともなう処分等について

---

## 安良岡教育長

以上で本日の日程はすべて終了した。これをもって12月定例会を閉会する。